

6 3 6 1 - 8 1 9
平成 1 8 年 1 0 月 2 6 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 7 号について
平成 1 8 年度病害虫発生予報第 7 号を発表したので送付します。

平成 1 8 年度病害虫発生予報第 7 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
施設野菜全般	アブラムシ類	やや多	2
	ハスモンヨトウ	並	2
	タバココナジラミ類（タバココナジラミ ハイタイプ Q 及びシルバーリーフコナジラミ）	やや多	2
冬春キュウリ	べと病	やや少	2
	うどんこ病	やや多	3
	褐斑病	並	3
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	3
冬春ピーマン	斑点病	並	3
	うどんこ病	やや多	4
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	4
冬春トマト	葉かび病	並	4
	トマト黄化葉巻病（TYLCV）	前年～前々年と 同程度	4
	タバココナジラミ類	やや多	5
冬春イチゴ	うどんこ病	並	5
	ハダニ類	やや多	5
カンキツ類	ミカンハダニ	並	5
チャ	カンザワハダニ	やや多	6

病害虫発生予察注意報を発表

冬春キュウリは定植～生育初期、冬春ピーマンは定植直後、冬春トマトは生育初期、冬春イチゴ定植～生育初期、カンキツ（温州みかん）は収穫期、チャは秋芽生育期であった。

11月の気象予報

平年に比べて晴れの日が多く、気温は平年より高い、日照時間は平年並または多いと予想されています。（1か月予報 鹿児島地方気象台 10 / 20 発表）

発生予報の根拠および防除対策

施設野菜全般

1 アブラムシ類 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の冬春キュウリでの発生面積率20.0% (平年0.8%)、葉当たり虫数0.6頭 (平年0.0頭) はいずれも平年より多である。
- 2) 冬春イチゴでの発生面積率33.4% (平年24.6%)、寄生株率6.3% (平年3.3%) はいずれも平年よりやや多である。
- 3) 冬春ピーマンの巡回調査では発生未確認である (平年発生面積率 1.9%)。

[防除上の注意]

- 1) キュウリやピーマン等多くの作物のウイルス病を媒介するので、有翅虫の飛来防止に努めるとともに、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を定期的に行う。

2 ハスモンヨトウ (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では、冬春キュウリ、冬春ピーマン、冬春トマト及び冬春イチゴで食害の発生を確認している。
- 2) フェロモントラップの誘殺状況は、都城市及び西都市で9月中旬及び10月上旬に一時的に多くなったが現在は平年並となっている。また、宮崎市佐土原町 (農試内) では8月に次ぐピークを迎えている。(誘殺数は平年並み)

[防除上の注意]

- 1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。
- 2) 施設内で発生すると天敵類が少ないこと、施設内気温が高いことから増殖が続くので注意が必要である。

3 タバココナジラミ類 (タバココナジラミ、タバココナジラミ、タバココナジラミ) (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の冬春トマトでの発生面積率60.0% (平年19.8%) は平年より多、百葉当たり虫数2.4頭 (平年0.9頭) は平年よりやや多である。

トマトの項 及び 平成18年度病害虫発生予察注意報第7号 (10月24日発表) 参照

- 2) 10月中旬の冬春キュウリでの発生面積率40.0% (平年34.5%)、百葉当たり虫数7.2頭 (平年5.8頭) はいずれも平年並である。
- 3) 10月中旬の冬春ピーマンでの発生面積23.1% (前年58.3%)、百葉当たり虫数0.7頭 (前年3.6頭) で、前年と比較してやや少ない傾向にある。

[防除上の注意]

- 1) 施設開口部に防虫ネット等を設置して飛来防止に努める。
- 2) 発生を確認したら早めに防除する。なお、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。

冬春キュウリ

1 ベと病 (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である (平年発生面積率 11.6%)。

[防除上の注意]

- 1) 湿度が高いときに激発しやすく、激発すると防除が困難となるので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。
- 2) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように肥培管理に注意する。

2 うどんこ病 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率40.0% (平年26.2%) は平年よりやや多、発病葉率1.4% (平年2.6%) は平年並である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、本病の発生に好適である。

[防除上の注意]

- 1) 病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- 3) 乾燥時に多発するので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

3 褐斑病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である (平年発生面積率 15.9%)。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからの防除は困難なので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- 3) 摘除した発病葉はほ場外に持ち出し処分する。

4 ミナミキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率40.0% (平年4.2%)、葉当たり虫数4.8頭 (平年0.5頭) はいずれも平年より多であるが、一部地域 (東諸県地区) での発生であった。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は平年に比べて晴れの日が多く、気温は高い、日照時間も平年並または多いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 多発してからでは防除効果が低くなるので、低密度のうちに防除する。

冬春ピーマン

1 斑点病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年発生面積率 3.7%)

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、除湿に努める。
- 2) 病原菌が侵入した後の防除効果が低いので予防散布を行う。

2 うどんこ病 (やや多)

平成18年度病害虫発生予察注意報第6号(10月24日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率23.1%(平年4.4%)は平年より多、発病葉率0.3%(平年0.2%)は平年よりやや多である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は平年に比べて晴れの日が多く、気温は高い、日照時間も平年並または多いと予想されており、本病の発生に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。
- 2) 病勢が進展してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

3 ミナミキイロアザミウマ (やや多)

平成18年度病害虫発生予察注意報第6号(10月24日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率61.5%(平年25.2%)は平年より多、10花当り寄生虫数0.7頭(平年0.6頭)は平年並である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は平年に比べて晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。また多発してからでは防除効果が低くなるので、低密度の内に防除を徹底する。

冬春トマト

1 葉かび病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生未確認である。(平年発生面積率1.4%)

[防除上の注意]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

2 トマト黄化葉巻病(TYLCV) (前々年~前年と同程度に多い)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の巡回調査では発生面積率20.0%(H16 14.3% H17 33.4%)で、前々年、前年と同程度に多い発生である。

[防除上の注意]

- 1) 生育初期に感染すると被害が激しく全滅する場合もあるので、発病株はすぐに抜き取り放置せず埋没処理を行う。
- 2) コナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ及びタバココナジラミ バイオタイプQ)によって媒介されるので、施設開口部には必ず目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置して施設内への侵入を防止する。
- 3) 施設内には黄色粘着トラップ等を設置し、早期発見に努めるとともに、栽培期間中を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。
- 4) 施設内外の雑草はコナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。

3 タバココナジラミ類 (シハ'リ-フコナジラミ、ハ'コナジラミ ハ'イタイ'Q) (やや多)

平成18年度病害虫発生予察注意報第7号(10月24日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の冬春トマトでの発生面積率60.0%(平年19.8%)は平年より多、百葉当たり虫数2.4頭(平年0.9頭)は平年よりやや多である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は平年に比べて晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 施設開口部に防虫ネット等を設置して飛来防止に努める。
- 2) 発生を確認したら早めに防除する。なお、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。

冬春イチゴ

1 うどんこ病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率16.6%(平年13.3%)、発病葉率0.6%(平年1.6%)はいずれも平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 初め葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- 2) 激しく発病すると防除効果が低くなるので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。
- 3) 発病果など被害部は伝染源になるので早めに取り除きほ場内に放置しない。

2 ハダニ類 (やや多)

平成18年度病害虫発生予察注意報第8号(10月24日発表)参照

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率66.7%(平年23.5%)は平年より多、寄生株率6.3%(平年5.5%)は平年並である。
- 2) 向こう1ヶ月の天候は平年に比べて晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な環境がつづくと考えられる。

[防除上の注意]

- 1) 収穫期に寄生数が増加してからの防除は困難なので、低密度時から防除を徹底する。
- 2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。
- 3) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

カンキツ類

1 ミカンハダニ (並)

[予報の根拠]

- 1) 10月中旬の発生面積率42.1%(平年48.0%)は平年よりやや少、寄生葉率2.3%(平年14.9%)は平年より少である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数

5～10頭を目安に、増殖初期に防除を行う。

2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

チャ

1 カンザワハダニ（やや多）

[予報の根拠]

1) 10月中旬の発生面積率47.1%（平年31.7%）は平年よりやや多、寄生葉率2.9%（平年4.4%）は平年並である。

[防除上の注意]

1) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

農薬散布時のドリフト対策について

- 1 ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要です。
- 2 風の弱いときに、ノズルや散布方向、噴霧圧力などに注意して、適正な農薬散布を心がけましょう。
- 3 地域でよく話し合い、農薬の使用時期や農産物の栽培内容などを十分調整しましょう。
- 4 農薬の散布について疑問点がありましたら、病害虫防除・肥料検査センターもしくは最寄りの農業改良普及センターへお問い合わせください。

その他

1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。

3 発生量（程度）の区分

多い	（高い）	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	（やや高い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	（やや低い）	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	（低い）	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 （平年値は過去10年間の平均）

4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病虫害防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp